

# 支援相談員が拓く 老健マネジメントの新境地



小森有美子 [こもり・ゆうこ]

介護老人保健施設ひむか苑（宮崎県）

## はじめに

私は、2003年に、同じ法人で併設の一般病院（ケアミックス型：446床）に医療ソーシャルワーカーとして入社し、相談援助業務に従事し始めました。急性期・回復期・緩和ケアなど、さまざまな場面において困難に直面する患者・ご家族の支援や部門マネジメントに携わってきました。

2021年に法人内異動により老健施設での相談援助業務に加え、稼働状況の管理や施設基準の維持、部門マネジメントに取り組んでいます。

2024年度の介護報酬改定では、「医療と介護の連携」が重点項目として掲げられ、特に「急変時の対応」「医療的ケアの充実」「看取り」が重要視されています。なかでも、高齢者施設と医療機関との実効性のある連携体制の構築は喫緊の課題であり、当苑では協力医療機関との連携を円滑にするために、協力医療機関の患者支援室と共同で入院相談のルートや基準を整理することで、実効性のある連携体制の構築をめざしています。

## 施設紹介

宮崎県は温暖な気候と豊富な日照時間を誇り、「日本のひなた」と呼ばれています。その宮崎で、県内第1号の老健施設として1988年に開設されたのが、「ひむか苑」です。

当苑が位置する宮崎市小松台地区は、高齢化率が37.8%と、市内でも特に高齢化が進んでいる地域です。そうした地域ニーズに応えるため、当苑では「夢・やすらぎ・笑顔」をモットーに、入所・通所の両面で質の高いケアの提供をめざしています。

現在、入所定員は132名（うち認知症専門棟30名）、通所リハビリの定員は45名で、特に在宅復帰と在宅生活支援に力を入れる“超強化型”として、地域との

連携を強化しながら支援を行っています。

## 業務について

2010年より、法人内の相談援助部門間（医療機関・老健施設・居宅介護支援事業所）で人事異動が始まり、部門間の相互理解と連携の強化が進められています。

当苑の支援相談室には、3名の社会福祉士と1名の理学療法士が支援相談員として配置されています。いずれも豊富な現場経験を有しており、社会福祉士は医療機関において前方連携や退院支援などに携わった経験があります。理学療法士は、急性期・回復期・地域包括ケア病棟での勤務経験をもっています。こうした医療現場での経験により培われた「治療期間の流れや退院支援のスピード感」「入所者の状態像や予後を的確に予測する力」は、日々の業務において大きく活かされています。

また、超強化型の施設基準を安定的に維持するため、在宅復帰率・ベッド回転率・入所前後と退所前後の訪問指導割合など、変動の大きい主要指標については、スプレッドシートを用いて日々細かく記録・管理しています。その上で、単月ごとの基準充足にも留意しつつ、数か月先を見通した運営を行うことで、継続的に基準を満たせるよう努めています。常に数値を意識した運営体制を構築し、柔軟かつ戦略的な対応が可能となるよう取り組んでいます。

加えて、入所稼働管理においては、法人が導入しているオンラインプラットフォームを活用し、法人内の相談援助部門で空床状況を随時共有しています。近隣の医療機関や居宅介護支援事業所に対しては、ホームページ上での情報公開に加え、医療介護現場のコミュニケーションツールであるMCS（メディカルケアステーション）を活用して空床情報などを発信しています。